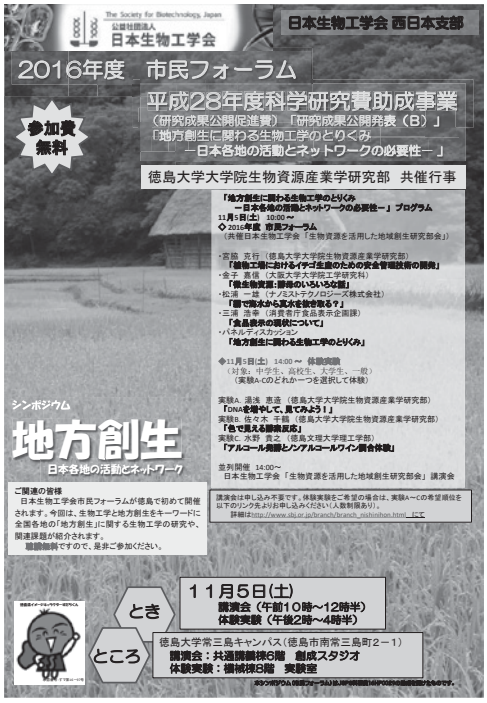
支部だより

◇西日本支部　市民フォーラム開催報告◇

（企画担当理事・支部長・庶務）大政　健史・辻　明彦・櫻谷　英治

科研費成果公開事業：西日本支部市民フォーラム「地方創生に関わる生物工学のとりくみ－日本各地の活動とネットワークの必要性－」を，2016年11月5日，徳島大学常三島キャンパスにて，右記のポスターに従うプログラムにて190名のご参加をいただき開催致しました．この市民フォーラムでは，午前中に地方創生を紹介する事例集を作成し，これを基に，地方創生と生物工学について議論を行い，午後は中高大学生を対象とした実験教室を行いました．これにつきましてご報告させていただきます．



◆開催挨拶

五味勝也（東北大学大学院農学研究科，日本生物工学会会長）

◆講演

徳島県だけでなく全国で展開されている生物工学分野における地方創生の実績や課題について，産官学4名の講演者の方々より，微生物，植物，動物を対象とした応用研究をわかりやすく解説いただきました．「植物工場におけるイチゴ生産のための安全管理技術の開発」では宮脇克行氏（徳島大学）により，LEDを利用した植物工場でのイチゴ栽培の最新技術が紹介されました．「微生物資源:酵母のいろいろな話」では金子嘉信氏（大阪大学）により，酵母の単離と利用が古くから行われカルチャーストックとして保存，利用されていることが紹介されました．「霧で海水から真水を抜き取る？」では松浦一雄氏（ナノミストテクノロジーズ株式会社）により，超音波霧化分離法技術を応用して，海水から水を分離する最新技術について紹介されました．「食品表示の現状について」では三浦浩幸氏により，食品表示を正確に理解することの重要性について解説されました．

◆パネルディスカッション**「地方創生に関わる生物工学のとりくみ」**

パネリスト：中武貞文（鹿児島大学），古賀雄一（大阪大学），土居幹生（釧路工業技術センター），五味勝也，宮脇克行，金子嘉信，松浦一雄，三浦浩幸，辻　明彦

このパネルディスカッションでは，日本生物工学会「生物資源を活用した地域創生研究部会」により，日本各地の地方創生の活動とそれらネットワークの現状と今後について「地方創生に関わる生物工学のとりくみ」というテーマで報告されました．パネリストの方々には短い単語（～ということは，～にもかかわらず，など）をお題としてこの場で提示させていただき，これを生物工学と結び付けてお話しいただくという手法を用いて議論しました．短い時間ながらさまざまなお立場よりご意見を頂き，これに関する学生からの意見も非常に多く寄せられ意義深いものとなりました．

◆閉会挨拶　辻　明彦

（徳島大学大学院生物資源産業学研究部，日本生物工学会西日本支部長）

◆体験実験

午後は体験実験を開催し，高校生を中心に参加いただきました．生化学，生物化学工学，食品工学の分野から「DNAを増やして，見てみよう！」湯浅恵造（徳島大学大学院生物資源産業学研究部），「色で見える酵素反応」佐々木千鶴（徳島大学大学院生物資源産業学研

究部),「アルコール発酵とノンアルコールワイン調合体験」水野貴之（徳島文理大学理工学部）が企画され，それぞれ盛況のうちに無事終了いたしました.

◆講演会（並行開催）

午後の体験実験との並行開催としまして14時～17時にかけて「生物資源を活用した地域創生（グローカルバイオ）研究部会」第一回講演会を執り行いました.

大政健史（日本生物工学会　理事　企画委員会委員長）による研究部会の説明の後，5名の講演者の方々より,「地域で生物工学分野のイノベーションを創出するためのネットワーク」仲嶋　翼（三菱UFJリサーチ＆コンサルティング),「国内チーズと海外チーズの香気成分比較から見える北海道の酪農業と食品産業の課題」土居幹生（釧路鉱業技術センター),「迅速安価なモノクローナル抗体取得システムEcobody技術の開発と応用」中野秀雄（名古屋大学大学院生命農学研究科),「微生物の利用事例紹介　超好熱菌の利用と柚子由来酵母の単離」中武貞文（鹿児島大学産学連携推進センター）について，それぞれの地域特色を生かした産業や関連技術に関するお話をいただきました.

＊ ＊ ＊ ＊ ＊ ＊ ＊ ＊ ＊

生物資源活用による地域創生研究部会　講演会開催報告

（生物資源活用による地域創生研究部会　代表幹事）古賀　雄一

2016年11月5日に開催された市民フォーラム「地方創生に関わる生物工学のとりくみ－日本各地の活動とネットワークの必要性－」のあとを受けて，同日午後に徳島大学三常島キャンパスにおいて，生物資源活用による地域創生研究部会の第1回講演会を開催した．下記のプログラムのように，中野秀雄氏（名古屋大)，土居幹雄氏（釧路工業技術センター）および筆者から産業応用につなげる蛋白質工学の研究事例，地域産業であるチーズの分析と課題，また地域の微生物利用について，研究者目線の事例紹介を受けた．また，仲嶋　翼氏（三菱UFJリサーチ＆コンサルティング）と中武貞文氏（鹿児島大産学連携推進センター）からは，地域創生活動について社会的，政策的現状の分析結果の紹介を受け，研究者が地域創生にどのように関わっていくかを考えるうえで重要な提言をしていただいた．部会員の他，大学関係者，企業，徳島県庁関係者など30名ほどの出席者を交えて，技術的なディスカッションの他，地域の課題を生物工学の目線でどのように取り組んでいくか活発な討論が行われた．地域創生についてはその必要性は広く認識されているものの，何を課題とするべきかは，研究者にはまだ明確に見えてない部分があることが認識された．今後の部会活動を通して，生物工学の切り口で地域創生を考える機会を展開したいと考えている.

14:00～14:10	生物資源を活用した地域創生（グローカルバイオ）研究部会の紹介
14:10～14:40	仲嶋　翼（三菱UFJリサーチ＆コンサルティング） 「地域で生物工学分野のイノベーションを創出するためのネットワーク」
14:40～15:10	土居幹生（釧路工業技術センター） 「国内チーズと海外チーズの香気成分比較から見える北海道の酪農業と食品産業の課題」
15:10～15:40	中野秀雄（名古屋大学大学院生命農学研究科） 「迅速安価なモノクローナル抗体取得システムEcobody技術の開発と応用」
15:55～16:25	古賀雄一（大阪大学大学院工学研究科） 「微生物の利用事例紹介　超好熱菌の利用と柚子由来酵母の単離」
16:25～16:55	中武貞文（鹿児島大学産学官連携推進センター） 「地域資源を活用し地方創生に取り組む大学～鹿児島大学などの事例から」